

文部科学省 「熟議」に基づく教育政策形成の取組



熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決・政策形成をしていくこと。

具体的には、

- ①多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

というプロセスのことを言う。

◆事例:

10年前、鹿児島県鹿屋市では地元医師会と県立病院の対立に端を発し、救急車の市外搬送が多数発生した。その後、県立病院院長と医師会長などの関係者が積極的に熟議の場を開くことによって、問題解決のためのシステムを考案し、実行。現在では、高度な治療までを地域内で実現されている。また、3年前より小児夜間救急のコンビニ受診が増え、医療疲弊が問題となったが、ここでも、医療関係者と母親たちの熟議の場が多数設けられることによって、受診行動の適正化と診療の質向上につながった。

◎熟議の効果1: 行政改革

- ・教育についての情報と議論が市民に広く開放される。
- ・行政が教育政策についての情報提供と熟議のファシリテーションをおこなうことで、市民と共に教育政策を考えることができ、現場と行政の間にある問題認識のギャップを縮小することにつながる。
- ・社会課題ベースの議論ができるので、「縦割り、横割り」行政を乗り越えた政策形成につながる。それによって、教育現場における社会課題について、迅速で効率的な対応が可能となる。

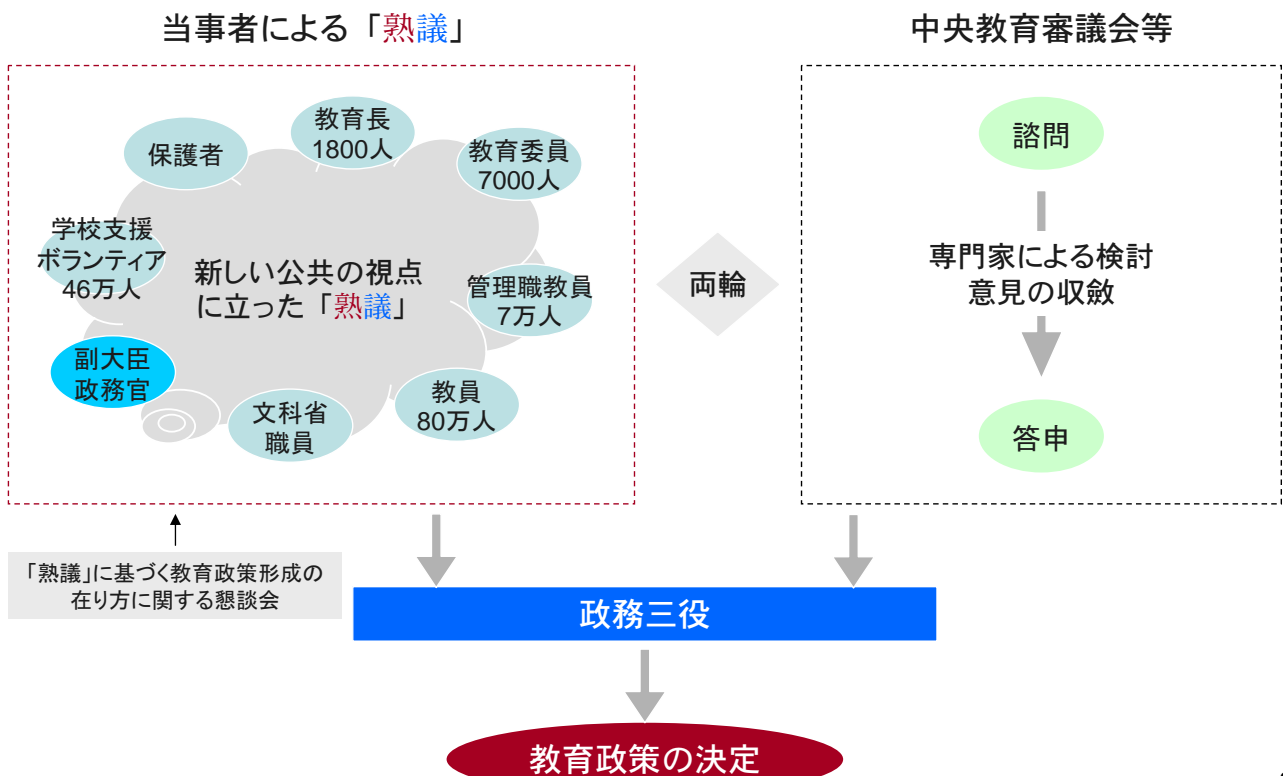
◎熟議の効果2: 新しい教育文化の創造

- ・正しく潤沢な情報のもと、色々な関係者が本音をぶつけ合い、課題を認識。そして、課題解決に向けて徹底的に議論をすることにより、社会的合意を編集・創造する。
- ・これらのプロセスを通じて、「市民一人ひとりが教育の担い手として当事者意識を持って教育に関わり、良い教育、良い社会を創る」という市民文化を醸成していく。
- ・それぞれの地域で、教育を考えるための「リアル熟議」が開かれるようになることで、市民が居場所と出番を確認できるようになる。また、地域のつながりが形成される。

1

「熟議」に基づく教育政策形成の取組①

中央教育審議会等における専門家による検討に合わせて、車の両輪として、当事者による「熟議(じゅくぎ)」に基づいた意見を踏まえ、政務三役にて政策決定を行う。



2

「熟議」に基づく教育政策形成の取組②

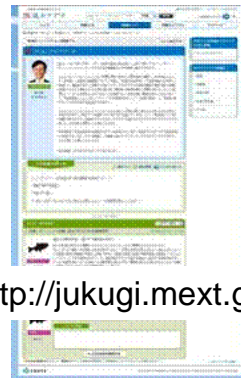
当事者による「熟議」に基づいた意見を収集するため、「リアル熟議」と「ネット熟議」（熟議カケアイ）をハイブリッド展開

【平成22年4月17日より実施】

リアル熟議（現場熟議）



ネット熟議（熟議カケアイ）



ハイブリッド展開

<http://jukugi.mext.go.jp/>

【狙い】

- ・熟議を通じて、各地域が自律的によりよい教育現場をつつていく
- ・現場の抱えている課題について生情報を入手し、教育政策に生かす

【狙い】

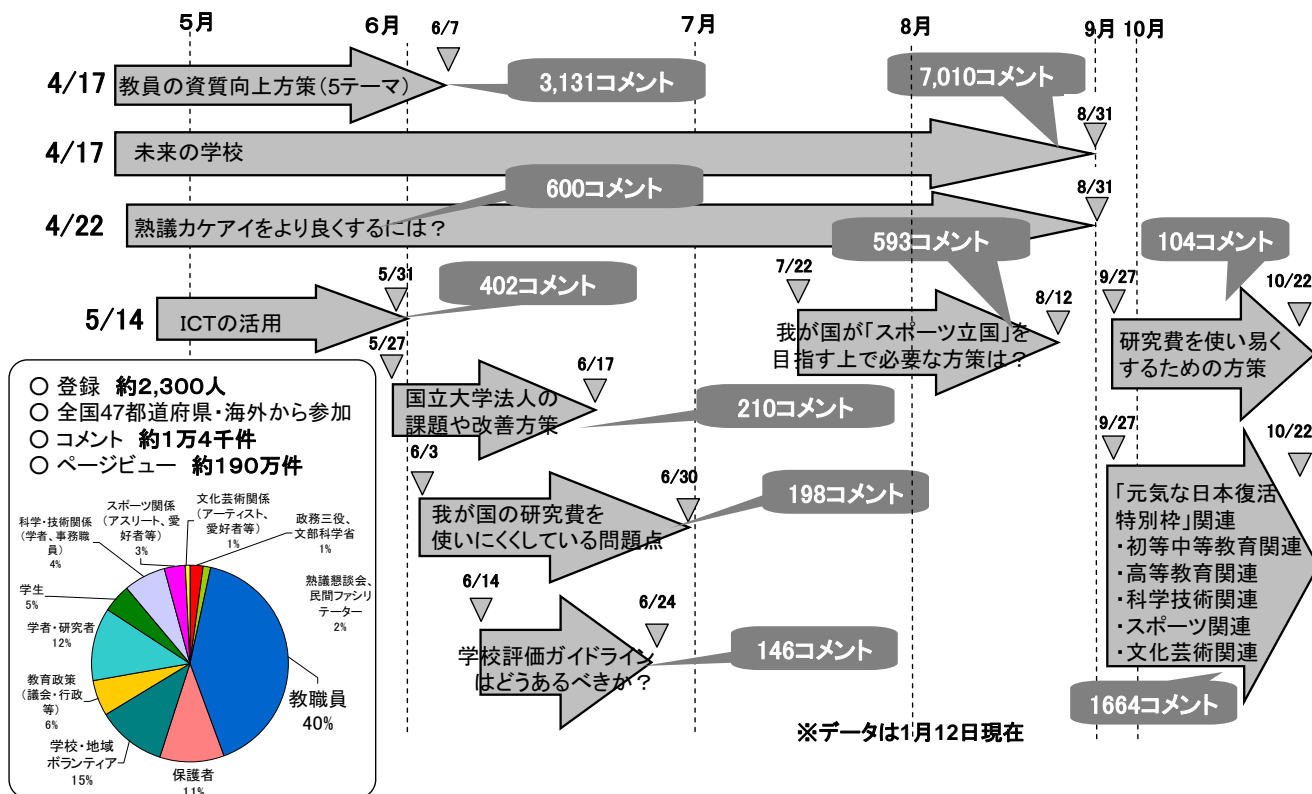
- ・課題について、多くの参加者で熟議することにより、教育政策をより洗練させる
- ・教育政策の形成過程を「見える化」することで、各施策の当事者への浸透度を上げる

【コンセプト】

- ①実際に対面で行う「現場対話での熟議」と、時間・場所の制約が少ない「Web上での熟議」をハイブリッド展開
- ②それぞれの熟議には、「教育現場の当事者」と「政務三役」が参加
- ③文部科学省職員は、熟議を促進する情報提供（事例やデータ）・ファシリテーター役として参加
- ④熟議のプロセスはネット等で公開（特に、「Webサイト上での熟議」はリアルタイムで公開）

3

ネット熟議（「熟議カケアイ」サイト）の運営状況



4

「ネット熟議」の具体的事例 ～教員の資質向上について～ ①

「教員の資質向上方策は？」をテーマに熟議をスタート(4/17)

1,009コメント

発展的な熟議へ移行(論点を分割)(4/30)

- ①教員になる際につけるべき「力」
- ②教員になってからも磨き続けるべき「力」
- ③管理職等にはどのような「力」が必要か

1,137コメント

406コメント

576コメント

サイト参加者による「文部科学省への提案書」の取りまとめ終了(6/7)



まとめとして寄せられたコメント(提案書より抜粋)

- 実践力を身につけるべき(教員・学生に多い意見)
 - 専門性を身につけるべき(学者・研究者に多い意見)
 - 社会性を身につけるべき(保護者に多い意見)
- 結果、教員になる際にはこれらの力が必要である。
教員は、これらの資質が求められる専門職である。
4年間でできなければ、さらなる時間をかけてでもやらなければならない。
そして、それらを見極めた上で現場に出すという制度にしなければ、資質の向上にはならないだろう。
誰もが納得する理想の教員にするために。

5

「ネット熟議」の具体的事例 ～教員の資質向上について～ ②

サイト参加者有志により、鈴木副大臣に提案書を手交(6/25)

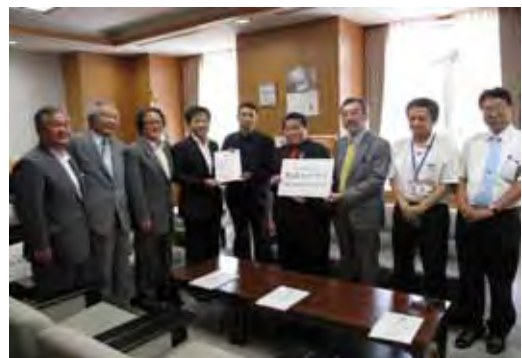
提案式

日時:平成22年6月25日(金)11:00～11:10

場所:文部科学省東館鈴木副大臣室

出席者:

- ・サイト参加者:Mitsu、マサ、りんどう、上田和俊、Min、カシケン(ニックネーム表記、敬称略)
- ・文部科学省:鈴木副大臣ほか
- ・「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会:金子座長、田村副座長、貝ノ瀬委員



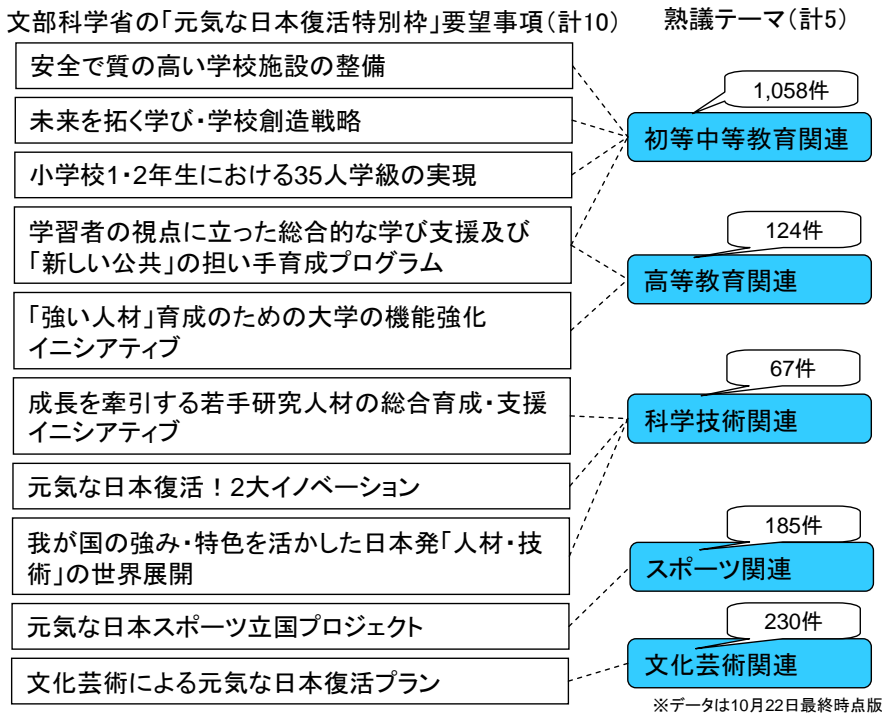
中央教育審議会でも審議の材料として活用(6/29～)

- 中央教育審議会 教員の資質能力向上特別部会(第1回)において提案書が報告され、委員より高い評価を得た。(6/29)
- これも踏まえ、当部会で引き続き審議がなされているところ。

6

ネット熟議（「熟議カケアイ」サイト）の運営状況②

文部科学省の「元気な日本復活特別枠」の項目について熟議を実施
（9月27日～10月22日）



※同時に、政策の内容を皆様にご理解頂くために、関連資料や解説動画を公開

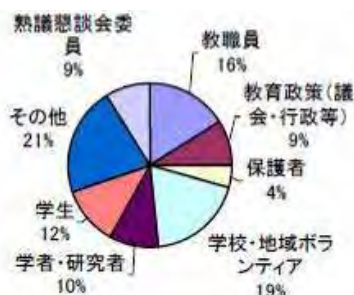


7

「リアル熟議」の展開（1）： 文部科学省「熟議に基づく教育政策形成シンポジウム」

- 文部科学省「熟議」のキックオフとして、2010年4月17日、文部科学省講堂において開催。
- シンポジウム冒頭、鈴木文部科学副大臣より「熟議」に基づく教育政策形成の重要性の呼びかけとともに、Web サイト「文科省政策創造エンジン 熟議カケアイ」の設置が発表された。
- その後、グループ毎に「小・中学校をよりよくするにはどうすればよいか」をテーマに、教育関係者と副大臣・大臣政務官・文部科学省職員が車座になって熟議を行い、約200名の参加者で埋め尽くされた会場は熱気に包まれた。

- 日時：平成22年4月17日（土）13:00～16:50
- 場所：文部科学省講堂（東館3階）
- テーマ：小・中学校をよりよくするにはどうすればよいか
- 参加者
鈴木寛 文部科学副大臣
高井美穂 文部科学大臣政務官
「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会委員
教育現場に関わられている一般参加者約200名



8

「リアル熟議」の展開（2）：横浜リアル熟議（ヨコハマの学校と地域）

- リアル熟議は、北海道、青森、愛知、島根等全国各地で30回超開催。
- リアル熟議参加者が、新たなリアル熟議を主催したり、リアル熟議主催経験者が、他の地域のリアル熟議を支援したり、波及効果が続々。
- 現場主導での「リアル熟議」実施を呼びかけ、その予定を「熟議カケアイ」サイトで公開するとともに、実施主体に対して、文部科学省が参考資料の提供等積極的支援。
- 「リアル熟議」の実施結果について、「熟議カケアイ」サイトで公開し共有。



横浜リアル熟議(ヨコハマの学校と地域)
 日時:平成22年6月23日(水)18:00~20:00
 場所:横浜市都筑区役所6階大会議室
 テーマ:ヨコハマの学校と地域
 ~明日からできること~
 参加者:63名(1グループ約8名)

- 学校と地域をつなぐ「地域コーディネーター」の重要性が強調され、具体的な活躍の方策等が熟議された。
- 終了後、具体的なアクションプランを作り上げるワーキンググループが立ち上がり熟議を継続。
- 横浜市の「中期4か年計画」(素案)に「地域コーディネーター」の養成や効果的配置が盛り込まれた。

9

「リアル熟議」の展開（3）： 千代田区リアル熟議（ICT） 新宿区四谷地域第1回「学校熟議」



千代田区リアル熟議(ICT)
 日時:平成22年7月4日(日)13:00~17:00
 場所:千代田区立九段中等教育学校
 テーマ:ICTを活用した21世紀にふさわしい学校や学びとはどうあるべきか?
 参加者:44名(1グループ約7名)

- Webサイトでの熟議、学校教育の情報化に関する有識者の懇談会、双方の議論を踏まえた「マインドマップ」を下敷きに議論が深められた(写真左)

○熟議の結果、「情報教育」と「授業の情報化」について独自にパワーポイントで整理し、発表したグループもあった。(写真右)

新宿区四谷地域第1回「学校熟議」
 日時:平成22年7月17日(土)14:00~17:00
 場所:新宿区立四谷中学校
 テーマ:四谷地域の学校をより良くするために私たちにできること
 参加者:約40名(1グループ約6名)

- 学校に地域が参加し、地域も元気になる方策について、多様な地域の参加者も加わり、議論が深められた(写真左)
- 「学校の意思決定のプロセスへの子どもの参加」と「教育政策形成への現場の参加」の必要性が重ねて語られた
- 最後に校長先生からは「熟議って良いですね!」という感想のコメントがあり、終了後、校長室で今後の四ツ谷での熟議の継続方策について、番外編熟議が行われた(写真右)

10

「リアル熟議」の展開（４）：リアル熟議@慶応大学（大学の在り方）



リアル熟議@慶応大学(大学の在り方)

日時:平成22年7月24日(土)13:00~17:00

場所:慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎

テーマ:大学は、もういらない?~私たちと大学はいかにあるべきか~

参加者:約100名(1グループ約10名)

- 大学生、高校生、経営者、企業人事担当者等が参加し、大学入試、大学内での学習・研究や活動、就職と進学等について、議論が深められた。
- 鈴木文部科学副大臣、金子熟議懇談会座長、田村熟議懇談会副座長等、約10名の文部科学省職員も参加し、車座になり様々な意見交換がなされた。
- 大学入試に関する議論では、高校生から、「進学の先の職業・就職に関する情報がもっとほしい」といった意見が出され、高校の教員やオープン・キャンパスを主催した学生からも、大学が提供したい情報と高校生が求める情報に乖離がある旨指摘がなされた。
- 大学内の学習・研究や活動に関する議論では、「研究する教授だけでなく、教えることに特化して専門性を持った教授の存在も認めていくべきである。それと関連して、教員の位置づけを明確化していかなければならない。」といった意見も出された。
- 就職と進学に関する議論では、「学生の主体性が醸成されるために、本熟議のように、学生、教員、企業人等との間で情報交換、意見交換する場があるとよい」といった意見も出された。
- まとめの発表では、「新・大学職業体験プログラム」を独自に提案してプレゼンテーションをしたグループもあった。(写真右)

11

「リアル熟議」の展開（５）：リアル熟議in秋田（学校・家庭・地域の連携）



リアル熟議 in 秋田

日時:平成22年8月1日(日)13:00~16:00

場所:由利本荘市立 本荘南中学校

テーマ:学校・家庭・地域の連携強化に向けて ~子ども達が語りかけるもの~

参加者:約122名(1グループ10名)

- 県内各所から、市町村教育長をはじめとした教育委員会関係者、学校長、教職員、PTA等が参加し、前半は「読書と図書館」について、後半は選択テーマ(子供たちの夢、家庭教育等)で議論が深められた。
- 議論の基礎資料として、全国学力調査のアンケート結果が活用された
- 鈴木文部科学副大臣、佐々田熟議懇談会委員、貝ノ瀬熟議懇談会委員、柏谷熟議懇談会委員のほか、板東生涯学習政策局長をはじめとした文部科学省職員も参加した。
- 読書と図書館に関する熟議では、親子での読書の必要性などが強調された。また、今後継続して熟議を行う必要性について参加者から声があがり、「PTA熟議」の実施などの提案が行われた。

12

「リアル熟議」の展開（6）：青森熟議（未来の学校）



リアル熟議 in 横浜町(青森)
 日時:平成22年9月4日(日)13:00~16:00
 場所:横浜町ふれあいセンター
 テーマ:「未来の学校」~2020年の学校を語ろう
 参加者:約71名(1グループ約9名)

- 保護者の再教育をすべき。
- 教育環境改善には学校と地域社会の協力が不可欠。家庭や地域の教育力をもっと活かすべき。
- キャリア教育をする際など、空き教室を利用して地域の力を活用すべき。
- 教員研修で、教員に地域のことを知ってもらうようにすべき。
- 学校図書室と図書館を結びつけるシステムを構築すべき。
- 学校を核としたエネルギー小社会を形成していきたい。全国に先駆けた低炭素対策の学校を作りたい。
- 今日を契機に、学校として、地域として、互いに何が出来るかを考える新たな組織作りに取り組みたい。
- ※ その後、青森県PTA連合会の皆さまによる熟議が開催されるなど継続的な取り組みが始動

13

「リアル熟議」の展開（7）：東大リアル熟議（フロンティア人材の養成）



事前作成シート「国際舞台上で活躍する人材像」に、加えた方がよい事柄やより考えた方がよい考えや事実を追記



ゲストや傍聴者が傾聴する中、解決策や新しい視点が模造紙に次々に追加



東大両副総長含む総勢7名のゲストが熟議や発表へのコメント、関連する話題の解説、今後の方向性等について総括



前半で話し合われた課題のうち、グループで重要だと考えるものを絞り込み、解決策やアクターごとのアクションプランについて議論



各グループがパワーポイントに熟議の内容について、課題設定、解決の方向性、アクターごとの提言にまとめて、3分程度で発表

東大から切り拓くフロンティア人材の養成~リアル熟議10.17~
 日時:平成22年10月17日(日)13:00~17:00
 場所:東京大学本郷キャンパス 医学部教育研究棟13階 第6セミナー室
 テーマ:世界を舞台に活躍できる人材をどう育成すればいいのか?
 参加者:約100名(高校生、大学生・大学院生、企業人、公務員、若手研究者、大学職員、大学教員など)

- 問題設定・解決力を持つ人材を生み出すため人材の流動性の確保が必要であり、教員の教育内容の評価、ケーススタディの充実が重要。
- リスクテイクを育成するため、リスクテイクを評価するシステムを社会・大学で構築すべき。
- 就業体験ではない企業連携に重点を置いたインターンシップを授業に取り込むべき。

14

「リアル熟議」の開催実績・予定

※ 他、多数調整中

日付	テーマ	場所	実施団体
4月14日(土)	小・中学校をより良くするにはどうすればよいか	文部科学省	文部科学省
6月22日(水)	コロナの学校と地域～明日からできること～	横浜市東区役所	横浜市教育委員会 北区4区役所
7月5日(日)	【中・高】学校の「教育」をどう見守るべきか？	千代田区立中央高等学校	NPO法人「未来の学び舎」
7月10日(金)	学校の「教育」をどう見守るべきか？	エディオン 三軒茶屋センター	エディオン 三軒茶屋センター
7月18日(日)	「これからの学校」をどう見守るべきか？	福岡県立福岡市東区立中央高等学校	福岡県立中央高等学校
7月22日(木)	大学は、もういいじゃない？	慶応義塾大学	慶応義塾大学
8月1日(土)	学校の「教育」をどう見守るべきか？	横浜市中区立中央高等学校	NPO法人「未来の学び舎」
8月7日(土)	学校の「教育」をどう見守るべきか？	慶応義塾大学	慶応義塾大学
8月14日(土)	小・中学校をより良くするにはどうすればよいか	東京女子大学	東京女子大学
9月2日(土)	未来の学校～2020年の学校をどう見守るべきか？	青森県立中央高等学校	青森県立中央高等学校
9月9日(土)	小・中学校をより良くするにはどうすればよいか	HACHAM ART COMPLEX(札幌市)	HACHAM ART COMPLEX(札幌市)
9月16日(土)	7割コンソシアムによる朝日新聞の発行方針をどう見守るべきか？	慶応義塾大学	慶応義塾大学
9月23日(土)	教育現場をどう見守るべきか？	慶応義塾大学	慶応義塾大学
10月2日(土)	教職研修(教育)によりリアル熟議～学校と地域との連携について～	岡山県立中央高等学校	岡山県立中央高等学校
10月7日(木)	学校と地域との連携について	アラスカ大学(帯広市)	アラスカ大学(帯広市)
10月10日(日)	「これからの学校」をどう見守るべきか？	東京女子大学	東京女子大学
10月16日(土)	第1回スロー熟議 地域と学校の「これからの学校」をどう見守るべきか？	徳島県立中央高等学校	徳島県立中央高等学校
10月23日(土)	7割コンソシアムによる朝日新聞の発行方針をどう見守るべきか？	慶応義塾大学	慶応義塾大学
10月24日(日)	「これからの学校」をどう見守るべきか？	HACHAM ART COMPLEX(札幌市)	HACHAM ART COMPLEX(札幌市)
10月25日(月)	最大の切っ掛けは「リアル熟議」の開催～10月17日～	八王子市立中央高等学校	八王子市立中央高等学校
10月28日(木)	「これからの学校」をどう見守るべきか？	ホセリオン(札幌市)	ホセリオン(札幌市)
10月29日(金)	「これからの学校」をどう見守るべきか？	札幌市立中央高等学校	札幌市立中央高等学校
10月31日(日)	「これからの学校」をどう見守るべきか？	札幌市立中央高等学校	札幌市立中央高等学校
11月1日(月)	「これからの学校」をどう見守るべきか？	札幌市立中央高等学校	札幌市立中央高等学校
11月7日(日)	PTAリアル熟議 小・中学校をどう見守るべきか？	秋田県立中央高等学校	秋田県立中央高等学校
11月14日(日)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月15日(月)	小・中学校をより良くするにはどうすればよいか	東京女子大学	東京女子大学
11月16日(土)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月17日(日)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月18日(月)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月19日(火)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月20日(水)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月21日(木)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月22日(金)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月23日(土)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月24日(日)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月25日(月)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月26日(火)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月27日(水)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月28日(木)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月29日(金)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
11月30日(土)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月1日(日)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月2日(月)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月3日(火)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月4日(水)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月5日(木)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月6日(金)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月7日(土)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月8日(日)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月9日(月)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月10日(火)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月11日(水)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月12日(木)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月13日(金)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月14日(土)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月15日(日)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月16日(月)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月17日(火)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月18日(水)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月19日(木)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月20日(金)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月21日(土)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月22日(日)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月23日(月)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月24日(火)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月25日(水)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月26日(木)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月27日(金)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月28日(土)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月29日(日)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月30日(月)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校
12月31日(火)	多様な教育リアル熟議(北海道～新しい公立学校)～	北海道立中央高等学校	北海道立中央高等学校

15

「リアル熟議」開催のお誘い

文部科学省では、それぞれの地域で、教育現場に関わられている方々が実際に集まり、より良い教育現場作りや教育政策等について議論する「リアル熟議」の取組が普及するよう推進しております。

○「リアル熟議」の実施要領

「リアル熟議」の開催を企画・予定される教育現場の皆さまは、下記の要領をご確認いただき、文部科学省へご連絡ください。より良い教育現場の実現のため、多くの皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

「リアル熟議」の望ましい形態

(下記は文部科学省として推奨する形態であり、必ずしもすべての条件が合致しなくてもかまいません)

- 教育現場当事者の方にお集まりいただき、より良い教育現場作りや教育政策について議論を行っていただきます
- 参加者人数は、20名以上として、参加者の属性は3つ以上(「教職員」、「保護者」、「学校・地域ボランティア」、「教育政策(議会・行政等)」、「学者・研究者」、「学生」等)の教育関係当事者が参加するものであることが望ましいです
- 参加者は15人以下のグループに分かれて熟議を行っていただきます(8名程度であるとなお望ましい)
- 各グループにはファシリテーター役(司会進行役)及び書記役を配置願います
- 主催者は、当該熟議当日の冒頭において、参加者に対し、当該リアル熟議のテーマに関する基礎資料の説明(事前に配布していれば当日説明しなくてもよい)を行って頂くことが望ましいです
- 当該熟議の開催場所は、参加者が全員集まることのできる場所(全体説明等で利用)があり、熟議実施グループが個別に分かれて議論のできる場所(個室が望ましい)があることが求められます

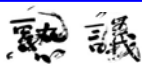
※「リアル熟議」は教育現場の皆さまに主催いただきます。文部科学省は、テーマに関する基礎資料の提供、参考資料「熟議実践パッケージ 熟議虎の巻」や「実施後アンケートテンプレート」の提供、Webサイト熟議力ケアイへの実施告知や熟議結果の掲載等の支援を行ってまいります。

～リアル熟議に興味・関心を持たれた方は下記担当までお気軽にお問い合わせいただければ幸いです。～

(担当者連絡先)
 文部科学省生涯学習政策局政策課 南郷、池田
 TEL:03-5253-4111(内線3279) 03-6734-3279(直通)
 MAIL:jukugi@mext.go.jp

16

熟議の取組 ～現場の課題解決と教育政策形成の好循環へ～



とは… 多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決・政策形成をしていくこと。
 具体的には、

- ①多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まる
 - ②課題について学習・熟慮し、議論をする
 - ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる
 - ④解決策が洗練される
 - ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる
- というプロセスのことを言う。

【学校現場における熟議のイメージ】

子どもを巡る問題

地域、保護者



学校

熟議

地域、保護者



学校

問題の解決

リアル熟議 (対面での熟議)



ハイブリッド
展開

- 教育現場の多様な当事者が様々なテーマで開催
- 昨年6月の本格展開以降、全国各地50箇所超で開催され、約3千人が参加
- 熟議の声は、文部科学省の政策検討に活かされるだけでなく、
 - ・政令指定都市の中期計画に組み込まれる施策、
 - ・地域を巻き込んだコミュニティソリューションによる学校づくり・まちづくりにつながる事例も生まれている。

ネット熟議 (Webサイト上での熟議)



<http://jukugi.mext.go.jp/>

- 約20テーマで熟議が実施され、全国47都道府県・海外(登録者約2千3百人)から約1万4千件の声が寄せられている。(ページビューは約190万件)
- 教員の資質能力の向上方策について、審議会の検討に先立ち熟議を実施(提案書として政務三役・中教審に報告)
- 「ICTの活用」の熟議等は、審議会等と併行して実施され、検討の土台にもなる等、政策形成過程で様々な活用

熟議のすすめ

～現場の課題解決のためのツールとして～

リアル熟議実践イメージ

STEP1: 準備



- ・テーマに関わりのある、様々な当事者に呼びかける
- ・熟議のゴールやルールを設計する
- ※文部科学省では、会場の確保や必要な物品等、熟議の開催・運営に必要な情報をまとめた「熟議虎の巻」等を提供

STEP2: 熟慮・議論



- ・7人程度のグループに分かれ「気楽に真面目に」熟議
- ・各参加者の問題意識を共有し、原因や解決策を模索
- ・参加者の意見を引き出す「ファシリテーター」を中心に模造紙・付箋やホワイトボードを活用し、議論の内容を「見える化」
- ※文部科学省では熟議説明資料、「ファシリテーションガイドライン」等を提供

STEP3: 熟議結果の共有



- ・各グループの代表者が熟議結果を発表→熟議を共有することで学び合い、協働につながる
- ※報告書を文部科学省「熟議カケアイ」サイトに掲載

熟議の効果



- ✓ **コミュニティソリューション(コミュニティによる問題解決)**
 - ・立場の違いによる問題認識のギャップを縮小し、当事者による問題解決を促進。
 - ・リアル熟議が広がる中で、「市民1人1人が教育の担い手として当事者意識を持って教育にかかわり、よりよい社会を創っていく」という新しい教育文化や、地域のつながりを醸成。

全国各地で50回以上の熟議が開催。老若男女(小学生～89歳)が参加。NPOや教育委員会、学校等における非公式熟議も多数開催。